

(4)各キャンプの内容

① ボランティア研修キャンプ

1. 企画運営のポイント

- (1) あかぎ無限大キャンプに向けて、野外炊事・登山についての基本的な知識や技能を身に付け、ボランティアとしての心構えをもてるよう企画した。
- (2) ふりかえりの行い方について、具体的なイメージをもてるように、推進委員である青木氏を講師として招き、演習形式で行った。
- (3) ボランティアが見通しと余裕をもって事前キャンプに臨めるように、事前キャンプの内容に沿った研修内容と事前キャンプ細案読み合わせを行った。
- (4) 職員・ボランティアが一つのチームとしてまとまるように、プログラムごとにチーム編成を変えて、多くの人とコミュニケーションを図りやすくした。

2. 日程・主な活動内容

日程	午前	午後
7月2日(土)	集合 自己紹介・アイスブレイク 事業概要説明 登山(覚満淵～鳥居峠～長七郎～小沼) 昼食(小沼湖畔)	野外炊事 入浴 つどい・退所点検の仕方 就寝
7月3日(日)	朝のつどい 朝食 所長講話 青木委員講義・演習	テント設営練習 事前キャンプ細案読み合わせ アンケート 解散

3. 活動の様子



赤城山登山



野外炊事



青木委員講義・演習

4. 成果と課題

(1) 参加者アンケート結果

満足: 10人(100%) やや満足: 0人(0%) やや不満: 0人(0%) 不満: 0人(0%)

(2) 成果

- ・キャンプに向けて心構えができ、具体的なイメージをもつことができたという参加者の感想や声が多かったことから、実践的な研修(登山・野外炊事・テント設営)が有効であったと考える。
- ・ふりかえりの行い方について、参加者は具体的なイメージをもち事前キャンプに臨むことができるという感想が多かった。
- ・「よい刺激になった」「一体感が生まれた」等の参加者の感想や声が多かったことから、ボランティア間の交流を図ることができたと考える。

(3) 課題

- ・プログラムについては、事前、本、事後キャンプの全12日分を1泊2日で行うのは無理なので、優先事項を決めて取り組ませていく必要がある。
- ・野外炊事研修で一律カレー作りを行わせるのではなく、カレー、バーベキュー、朝食作りを3班に分けて行わせるなど効果的に行う必要がある。
- ・登山時の連絡体制を強化する必要がある。(通信障害含む)

② 事前キャンプ 【ファースト】

1. 企画運営のポイント

- (1) 本キャンプに向けて、心身の準備を自分なりに考えられるようにゆとりをもった日程・プログラムを計画した。また、登山・野外炊事についても基本的な知識・技能の習得が確実にできるように、丁寧な説明と全員が全ての行程を体験できるようにした。
- (2) ボランティア主体のアイスブレイクを取り入れることで、参加者との距離を縮めるとともに、実態把握を円滑にできるように配慮した。
- (3) 特定の参加者同士で固まらないように、プログラムごとにチーム編成を変更した。また、全てのボランティアに関わることができるようにも配慮した。

2. 日程・主な活動内容

日程	午前	午後
7月9日(土)	受付 開会式 自己紹介・アイスブレイク 昼食	レクリエーション・眼の検査 野外炊事 入浴 ふりかえり 就寝
7月10日(日)	朝のつどい 朝食 登山 (覚満淵～鳥居峠～長七郎～小沼) 昼食(小沼湖畔)	ふりかえり アンケート 解散

3. 活動の様子



アイスブレイク



野外炊事



赤城山登山

4. 成果と課題

(1) 参加者アンケート結果

満足: 21人(88%) やや満足: 3人(12%) やや不満: 0人(0%) 不満: 0人(0%)

(2) 成果

- ・「思った以上に友達ができよかった。」「スタッフが優しく接してくれた。」という参加者の声が多いことから、仲間づくりに成功し、本キャンプへの期待が高まったと考える。
- ・野外炊事において、「水分量を間違えた。次に生かしたい。」など改善点が多数上がっていたことから、野外炊事の課題を見つけ、本キャンプに生かそうとする態度につながったと考える。
- ・赤城山登山では、体力的に厳しかった参加者が多く見られたが、本キャンプに向けて「体力づくりをがんばりたい。」という前向きな感想が多く見られた。

(3) 課題

- ・保護者面談について、本人が申し込みたいと言ったかどうか・学校での友人関係・参加者の体力・女子には生理の事等の共通フォーマットを作成する。
- ・コロナ禍で子供たちの体力が落ちていることを痛感した。今回のプログラムを受けて本番のプログラムを再考する。
- ・眼科検診時の活動(レクリエーション等)はグループごとで行えるものなどに再考する。